

# 「メキシコ・日本相互理解促進プログラム」実施のための事前調査報告書

## ◆ 調査の概要および目的

特定非営利活動法人ジャパン・リターン・プログラム（以下「JRP」）池崎専務理事および深谷随員は、2005年8月17日から同24日まで、「メキシコ・日本相互理解促進プログラム」実施のための事前調査として、独立行政法人 国際協力機構（以下「JICA」）東京国際センターならびにJICAメキシコ事務所の協力のもと、首都メキシコシティを訪問した。

今回の訪問の主な目的は、『メキシコと日本相互理解促進プログラム』実施における具体的な現地のニーズ調査、実施要件を調査することにある。

JRPは活動目標に沿い、日本語を既に習得し、日本語教師としてあるいはメキシコの日系企業等で活躍している人、将来メキシコと日本の間での活動及びビジネスチ



在メキシコ大使館にて、成田大使と

ャンスをつかむために日本語を学んでいる人々の現状と問題点を視察する。そして、今後のプログラムにより、更なる日本語のブラッシュアップを含め日本への理解を更に深めることと同時に、メキシコにおける日本人人材がより深くメキシコについて学び、それらを日本に持ち帰ることで、両国間の相互理解促進に寄与できるようになるよう、双方向的な具体的実施案を策定する。

## ◆ 総括

### メキシコにおける日本語教育の課題と要望

海外での日本語教育の一番の課題は今日では「教える側＝日本語教師の問題」が大きくなってきている。日本語学習者が少なかった以前の状況に比べ、現在では学習者の量、質とも上がり、より高いレベル、より多様なニーズの要望があるからである。学習者の日本語のレベルが上がれば上がるほど、教師のレベルの向上もより厳しく求められる。知識・教授法など日本語教育直接に関わるものだけでなく、日本社会についての知識、滞在経験など日本事情に通じていることも大きな比重を占めることになる。

学習者の動機・目標は様々で、学問・研究世界での日本語、趣味の範疇の日本語、子供社会の日本語、そしてビジネス分野での日本語と、多様化する日本語学習者の期待に応えられる日本語教師への要望が高まっている。今回の調査で最も大きな部分を占めたのが、日本語教師を巡る課題であった。多くの学習者に応えるべく日本側が、今なすべきことが見えてきたと言える。

#### 1.日本人日本語教師の定着

流動が激しく、なかなか定着しにくい。本人の個人的教育能力の問題や事前の現地の情報不足などがその要因と思われる。

#### 2.日本からの日本語教師の派遣

政府機関や公的機関などには国際交流基金などからの

派遣がある程度可能となっているが、現地の民間語学学校への派遣にはまだ道が開かれていない。また、大学などでも、日本語関係の学部、あるいは卒業単位として日本語が認められているコースでない派遣が不可能とのこと。数量とも不足しているから、柔軟性のある対応が求められている。

#### 3.現地日本語教師の研修

日本人の教師や大学などの公的機関に在籍する教師には日本での研修の門戸が開かれているものの、一般の語学学校に属するノン・ネイティブ教師にはその機会が極めて少ない。

国際交流基金等が行っている長期・短期研修は期間が長く、送り出し側には代替教師の問題が生じるので出しにくいという問題も存在しており、総じて、現地の事情を鑑みての研修形態が望まれる。

加えて、上級レベルの日本語学習を希望する学習者を十分に教えらるる教師の養成が急務である。

#### 4.教材の不足

日本語教育関係の教材は数多く出版されているが、現地の実情にあう教材が不足している。また、現地の要望に沿った教材の寄贈が求められている。各教材の値段も一般に安いとはいえず、現地通貨で購入するには高すぎるという問題がある。

#### 5.日本語学習者の学習意欲

学習した日本語を活用する場が限られており、学習者は高いモチベーションを維持しにくい。

大学などでの学習者は奨学金での来日の機会があるが、一般の語学学校学習者にはその機会は極めて限られている。しかし数年にわたって学んでいる熱心な学習者も多くおり、そのような人々にどう手を差し伸べられるかが大きな課題であろう。

#### 6.どのような日本語教育が求められているか

趣味の日本語の範囲では、その利用も限られる。日本語を手段として役立てるためには、状況・場面に依じて



JICAメキシコ事務所 河合所長と

訓練される機会は少ない。話すことは無論のこと、ビジネス社会では読み書きも必須だが、更に高度な待遇表現なども要求される。

## ◆ 「メキシコ・日本相互理解促進プログラム」プログラム案

### メキシコにおける

#### 「ノン・ネイティブ日本語教師研修」試案

##### 1.研修目的

ノン・ネイティブ日本語教師のレベルアップと日本語体験及び見学

ノン・ネイティブ日本語教師の中には来日経験がない教師や、来日の経験があっても、実体験として伝統文化などに接したことがない教師もいる。これらの教師への支援として、東京及び近郊へ招聘し、研修を行う。ノン・ネイティブ日本語教師は往々にして現地では初級を担当している場合が多い。各自日本語運用能力の向上は無論のこと、実際に日本社会を見学し、様々な文化を体験することによって、より経験に裏付けられたクラス運営が可能となり、自信にもつながる。

今回聞き取り調査に協力して下さったメキシコ日本語教師会会長穂積氏の要望に代表されるように、2ないし3週間という短期研修がもっとも適当と思われる。長期にわたる研修は他にもあるが、教師確保に必死の教育機関としては、能力向上のためとはいえ長期に研修に参加させる余裕はないためである。

試案としては対象を大学などの公的機関に絞ることなく、現地の教師会などの推薦による民間語学学校のノン・ネイティブ日本語教師に門戸を開くことが相当と考える。

##### 2.研修期間

2週間～3週間

##### 3.研修人数

中南米のノン・ネイティブ日本語教師5名～10名程度

##### 4.研修項目

日本語のレベルアップと日本体験と見学

##### ①日本語教授能力向上プログラム

1) 日本語教授法セミナー（直説法によるクラスレッ

スン

- 2) デモレッスン（実際にクラスレッスンを行う）
  - 3) 日本人日本語教師による日本語レッスンの見学（クラス授業）
  - 4) ビジネスパーソンに対するプライベートレッスン見学
- ##### ②日本語コミュニケーション能力向上プログラム
- 1) 日本人とのディベート、ディスカッション
  - 2) タスク（テーマに沿ってフィールドワークを行い発表する）
  - 3) 研修の成果を最終日に発表する。
- ##### ③日本事情・文化を理解するためのプログラム
- 1) 一般的な日本家庭にホームステイもしくはホームビジットする
  - 2) 日常生活の体験（交通機関、ショッピング、飲食など）
  - 3) 現代日本に関するもの（工場見学・秋葉原見学・デパート見学など）
  - 4) 日本の伝統文化の体験（茶道・華道・書道・日本料理・和菓子・和紙作成、相撲、歌舞伎など）
  - 5) 見学旅行 日本に関するもの（広島・鎌倉・横浜・日光など）  
日本建築・庭の見学（京都・奈良・岐阜白川郷・各種美術館など）

##### 5.研修終了レポート

・自由課題による東京探索——自分で切符を買い、電車に乗って出かけ、（土曜・日曜を利用して）予め決めたテーマに沿って探索し、レポートを作成する。

##### 6.その他

・研修者の希望による研修項目の追加